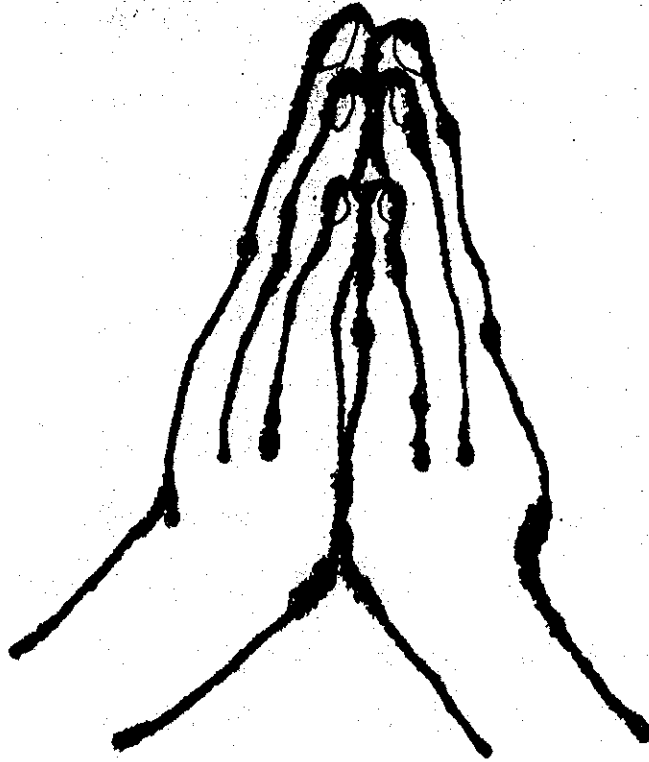




# 神奈川

発行 立命館大学  
 校友会 神奈川支部  
 〒221 横浜市神奈川区  
 鶴屋町2-21-9  
 東亜興産(株)内  
 広報担当(発行800部)  
 TEL (045) 312-1321



icam

○ 6月の例会の御案内 (講演会)

- ・ 演題 「日本の仏像について」
- ・ 講師 淀井 敏夫
- ・ 日時 昭59年6月10日(日) 午後2じ
- ・ 場所 三善ビル地下1F (横浜駅西口徒歩2分)
- ・ 会費 ￥900

淀井敏夫氏は芸大名誉教授・日本芸術院会員として活躍されています。

- ※ 月例会には 会員家族の参加歓迎します。
- ※ 問い合わせは 事務局(東亜興産内 浜田)まで。

## 母校の未来へ

幹事長 相沢良信 (昭和30年理工卒)

「経済大国・日本」という言葉が聞かれるが、私は「教育大国・日本」といいたい。内容の是非はともあれ、12年修学は国民のほとんどであり、大学生の数は四百万に近いと聞く。学生の指向も私の時代とは異なり、国立大学に合格しながら私立大学に入るケースが出て、しかも年々ふえる傾向にあるようです。教育は昔も今も金のかかるものいうことは変わりがない。16年のうち最後の4年が将来の人生進路を決定的にするという点で、大学生活は人生の最も重要な時期であるのは言うまでもありません。そのことが授業料が高く家計を圧迫させることを承知の上で国立大学に合格しながら私立大学に入るゆえんである。しかし、私達の母校「立命館大学」をどの様な特徴をもった大学にするか今一つははっきりしない。「未来を信じ未来に生きる」大学としてどこが他大学より優れているか。要するに自分の子供を入れるとすれば、今一つ魅力に欠けている。みんなで知恵を出しあって魅力ある学園づくりをしようではないか。

## 神奈川県支部第2回総会成功りに終わる

橋本卓也 (昭和46年産社卒)

4月1日(日)午後2時30分より、立命館大学総長天野和夫先生他多数の来賓を迎えて、神奈川県支部第2回総会が開催された。会場は横浜駅構内を東口に出ると首都高速道路わきにあるヨコハマプラザホテル、参加者は家族も含めると約140名を越えまずまずであった。開会の辞、校歌斉唱で始まり、議長が選出され、58年度活動経過報告、同会計報告、監査報告、59年度活動計画(案)、同予算(案)が次々と発表され全てが万場一致で可決承認された。続いて来賓の紹介、天野総長による「学園の現状と将来の展望」と題しての記念講演があり応援歌を斉唱して総会の部は終了した。いよいよ式場を移しての懇親会である。卒業以来の再会、昨年の総会以来の懇親、あちこちに小さなグループがたくさんできる。掛け合う声と笑いの中に懐しさと壮健で再会できた事の喜びが一際会場に交さする。

受付付近に大きな人垣ができた。我立命館大学が生んだ新進気鋭の作家、正延哲士氏(文学部哲学科)の著書「最後の博徒・波谷守之の半生」他3冊のサイン即売会がはじまった。するとドーン・ドーン・ドドン・ドドドド……。突然耳をつんざかんばかりの和太鼓の音。会場が一瞬の静寂を取りもどすのも束の間、他に控える大小5~6台の太鼓がそれにあわせてリズムカルにうなり出した。速く、大きく、勇壮に、そして次第にゆっくり小さくなったかと思うとまた速く。天野宣と若連による太鼓のすばらしい競演である。まさに懇親会もクライマックスであった。

その後、カラオケも飛び出す等、和やかな雰囲気うちに支部の発展と来年の再会を約束して散会となった。

吾がアルトハイデルベルグ

都 築 治 (昭和41年文卒)

日本国の高度成長が進み、経済大国の一員に仲間入りせんとする昭和36年に立命館大学に入学した。前年度は第一次安保騒乱の年であり当時の世相はその反動のせいか、比較的小となしかったように思う。三条の大橋に立ち、鴨川を北の方に向けて眺めると、大学生としての実感が湧いてくるのをおぼえた。当時の立命館は法学部、経済学部、文学部が広小路にあり、衣笠には理工学部と経営学部があった。総長は末川博であり、文学部には奈良本、林屋という著名教授が在籍していた。今をときめく梅原猛は、哲学科の助教であった。立命館に入学したのは、京都にある種の憧れをもっていただけであり、末川博が総長をしていたからでもある。入学の前には、末川という人を岩波派、後の「心」同人につながる当時の言葉でオールトリベラリストの一員であると考えていた。何故なら、河合栄治郎の編著の中に木村健次、阿部次郎、香藤勇、長与善郎、高木ハア氏らと共に一文をのせていたからである。もっともメーデーのデモに総長が参加するという話は聞いていたが。

印象に残る当時の諸先生は甲高い声で、声に自信があるからマイクはいらないと豪語していた林屋辰三郎、いつも笑いを絶やさない梅原猛、流暢なフランス語と巧みくべき博識でびっくりさせられた非常勤講師の大宰施門、とつとつと講義を進めた江原真伍、フィッシャー・ティースカウを最高の声楽家と誉め称えた京大の前田敬作らがいる。何年も前に学会などに発表した原稿を朗読していた教授や講師も何人かいたが、こんな人たちは、アナウンサーに代わってもらった方がどれだけ良いことかと憤りを感じた。当時の立命館大学は、教養科目を教えていた先生方により勝れた人たちがいたように思う。

講義がおわると河原町通りを南に下がり、九太町通りを東に天王町まで古本屋を一軒一軒のぞきながら、南禅寺の下宿にまで帰るのを常とした。試験の夢は、見た記憶というものが全然ないが、京都の街のとんでもない所に古本屋がある夢を何度も見るということは、どうしたことであろうか。

我が立命館の生んだ作家「正延哲士」氏の著書を紹介します。是非、ご一読下さい。

- 新・国姓爺伝説 徳間書店 ￥680
- 日本叛乱伝説 " ￥700
- 遙かなり聖母の河 " ￥680
- 最後の博徒  
波谷守之の半生 三一書房 ￥1,800

※ 正延哲士 1931年生  
立命館大学 哲学科中退

## ○ 第1回ゴルフ大会行なわれる

午前中に小雨であったが、午後からは晴れてゴルフ日和となった。大会は連日月曜日ということもあり、参加は少なかったが、親睦をかね楽しく一日を過ごすことができた。秋には(10月10日前後)県内で第2回ゴルフ大会を予定しているので、多数の参加を期待しています。

- ・ 5月13日(日)～14日(月) 館山グランドホテル泊  
幹事長杯争奪戦 大会は14日に。
- ・ 館山カントリークラブにて
- ・ 優勝 茂山哲也 (31年 理エ卒)
- 準賞 上藤由朗 (27年 経済卒)
- フービー賞 芥藤壽弥 ( " )
- ・ 参加 6名

- 58年度支部会計報告承認される。詳細は別紙  
収入 1,242,908円 支出 1,074,602円 繰越 168,306円
- 59年度会計予算・活動計画承認される。詳細は別紙

## 各担当者からのお願い

- 会費払い込みのお願い (会計担当 重谷)
 

会員一人ひとりの会費が 今後の支部の充実した運営、発展に結びつくことと御認識のうえ 皆様の御支援、御協力をお願いいたします。  
振込先は 下記いずれの機関を通じても結構です。

  - (1) 銀行 横浜銀行 横浜駅前支店  
ふ通預金 NO. 825229
  - (2) 郵便局 横浜中央郵便局  
振替口座 NO. 横浜5-10799

\* 口座名はいずれも「立命館大学校友会神奈川県支部」

  - (3) 現金書留 下記事務所まで  
〒221 横浜市神奈川区鶴屋町2-21-9  
三善ビル 東里興産(株)横浜支店内 浜田平穂

(昭和59年4月1日第2回総会出席の方は、当日の会費に含まれています)  
\* 年会費は ¥2,000円です。
- 勤務先・住所など変更のときは事務局まで御連絡下さい。  
(名簿発刊委員長 登川)

## 編集後記

- ・ 広報副委員長・横野圭司氏が栃木県小山市へ転勤になったので4号から副委員長に上田氏をお迎えし、7名の委員でがんばります。
- ・ タイプが故障したので途中から手書きになりました。お許し下さい。  
(武田, 上田, 都築, 山下, 川俣, 長坂, 長谷川)